



和朝

今昔物語

卷之九
世俗部

九



今昔物語部 十目錄

○世俗傳

- 一 邊衛舍人詣稻荷社茨田重方值女語
- 二 貞道季武公時紫野見物語
- 三 曾祢好忠推系子日遊語
- 四 尾張國司五節語
- 五 越前守為盛卿食六衛官人語



今昔物語部 十目錄

一 卯支子表及

今昔物語 後部九

○世俗傳

一 迎衛舍人諸稻荷茨田重方值女諸

今いひの。二月のけら午れ日。京中の貴賤稻荷
 申してとてわづらひありたり。ある年迎衛官の舍人
 ごととありたり。乃重方下野公助。茨田重方。奉武貞
 茨田為國。源部公友など。餅袋破子酒など。りて
 けりてとありたり。中乃申はらりたるわづらひ
 いけり。美女ゆきあはれり。濃と美。紅梅。前黄
 けり。おのそと。あはれり。わづらひ。けり。人かみりて

今昔物語(才草卷九)

二



古今物語 和泉卷九

ねんころり車あつらひたり。ちるるゆへに。東國^{とうこく}にて。こ
 夜^よこしなむらもなして。鬼林^{おにのり}のまじり。人よせらるる
 ものもなるといひ。接津^{つぎ}守^{まも}と。是^{こゝ}もな中^{なかつ}に。これ
 ものふして。しるるあまも。と。は。い。る。ち。る。あ。り
 賀^{うら}茂^し系^{けい}の返^{へん}。この日^ひは。こ。人^{ひと}は。無^ない。あ。い。し。て。い。つ。あ。つ。て
 う。今^{いま}の^の日^ひは。見^{けん}物^{ぶつ}い。と。い。は。し。馬^{うま}い。車^{くるま}い。ま。い。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 と。い。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。教^{しやく}を。あ。ま。だ。て。行^ゆ
 べ。ま。い。し。あ。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 い。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 集^{しやく}大^{だい}徳^{とく}が^の車^{くるま}は。う。ら。し。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 集^{しやく}大^{だい}徳^{とく}が^の車^{くるま}は。う。ら。し。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え

は。ま。り。車^{くるま}に。ま。り。て。教^{しやく}を。あ。ま。だ。て。行^ゆ
 と。い。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 女^{にょ}車^{くるま}の。中^{なかつ}に。い。ん。を。ば。や。の。お。も。い。か。ら。し。て。い。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 とも。げ。め。も。は。い。は。い。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 かり。と。せ。く。下^{した}屋^やに。い。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 を。あ。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 び。て。あ。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 かく。て。あ。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 車^{くるま}に。あ。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え
 ら。ま。り。て。あ。ら。ぬ。い。う。る。づ。い。て。あ。ら。し。て。中^{なかつ}に。ゆ。え

新編 雑談 種 轉 卷 六

一位摂政太政大臣 関院大將 内大臣公孝公。師 兼子兼家公弟 兼子兼

事と聞多し。ちや衣の頸取く引立よやのゆへに。若

くいさみなる下臈殿と人ども。曾丹がうらまは寄と

幕れ下よりもぬきいれく。曾丹が持衣の頸を取

る。幕乃の引出しけり。小若舟にさあがりておげ

けり。若舟に引出しけり。小若舟にさあがりておげ

て。もぬきいれく。曾丹がうらまは寄と

幕れ下よりもぬきいれく。曾丹が持衣の頸を取

る。幕乃の引出しけり。小若舟にさあがりておげ

四 尾張國司五節詔

といせり。やうごう。舊領受領して。官をすて。ちが

ころ若かりしが。幸ゆて。尾張守小若舟にさあがりて

ういて。任國ぬき。さうり。若舟の國司。さうり。あがりて

西氏にさうりて。田畠は。さうり。も。ち。けり。さうり。此守

の。や。う。も。ぬ。き。い。れ。く。曾。丹。が。う。ら。ま。は。寄。と

幕れ下よりもぬきいれく。曾丹が持衣の頸を取

る。幕乃の引出しけり。小若舟にさあがりておげ

けり。若舟に引出しけり。小若舟にさあがりておげ

て。もぬきいれく。曾丹がうらまは寄と

幕れ下よりもぬきいれく。曾丹が持衣の頸を取

る。幕乃の引出しけり。小若舟にさあがりておげ

けり。若舟に引出しけり。小若舟にさあがりておげ

あわり。やま。さ。う。り。け。り。若。舟。の。國。司。さ。う。り。あ。が。り。て

ぐんしきい殿と人差人きでげ五節衣乃るをん。まをて
氣色也みみくら。げ五節衣乃内には守妻子親親
とも屏風のししろみ集持るひ守りもやよりりや
うぬ人の流さしむ。うあり幸しそりわつらん守が
親よりみ未親人みとあて殿とゆるさしざうけき
ひ内色のものさげはくえくもさるど。うみきやんは
あはちうらもくれい。子どもとあはちうらうらも。ま
うぬ殿乃立中造中。宮中の女官ども乃唐衣
禪釋とくゆき。殿と人差人の物掛を。織物の指
費を忌さへぐに将装ぞれて通る。簾ののりぬ。お

かざりてえぐる。殿と人らうとれは屏風のうらも
みづくむ。間およぶ。お人の後へみづく人よふま
多うなほま。後の者もけしづき。てすうび。いともなる
し。ちうの間。うら殿と人宿直不ふよりわい。あ。び
尾張の五節衣の物のりり。みく地にもん
らう。まじしけ守が一家内色のものを。まこととんも
きねい。我をぶらう。く。れ。む。く。と。さ。り。ぐ。ち。ら。も。い。ご
これをとらう。て。泳。ね。ぐ。は。よ。い。さん。と。い。ふ。わ。ら。殿。上
人。ご。の。井。ご。中。う。い。う。ご。さん。と。同。び。う。の。五。節。衣。殿。上。人
あ。得。え。く。て。く。は。ぐ。ご。中。う。い。げ。五。節。衣。殿。上。人

入寄物吾の仲明巻九

のりぬ

甚いそやうも。さうかゝる人殿と人達。いふ節は
 多んとせ。げううは。皆。總を。とら。く。襦の。表。衣。は。な
 ぎんぐ。て。五節。衣。の。お。よ。ま。さ。び。致。を。は。く。ら。ま。あ
 う。り。ん。と。す。ら。ち。り。その。け。く。う。う。致。は。賢。き。ら
 り。あ。う。せ。び。を。ば。う。せ。び。と。せ。お。致。つ。と。さ。れ。ば。致。を。て
 ら。う。う。り。守。の。ま。れ。致。の。落。ち。ち。り。あ。か。致。た
 ち。し。て。五節。衣。の。つ。う。さ。女。房。の。中。に。は。は。り。う。致。
 ち。よ。う。う。さ。り。あ。う。せ。び。を。ば。う。せ。び。と。せ。お。致。は。い
 へ。た。う。り。守。の。ま。れ。致。を。わ。あ。ま。う。が。致。ま。
 う。さ。り。あ。う。は。ま。ぎ。P。は。も。を。は。い。く。位。ご。ま。あ。は。い。

け。ま。い。も。う。致。の。明。目。の。未。申。れ。と。な。さ。り。に。致。ま。也
 也。は。ま。ん。と。あ。う。と。う。り。い。げ。め。と。和。君。の。利。り。あ
 う。し。し。う。や。あ。う。う。う。う。あ。び。く。い。一。殿。と。人。目。之
 初。五。節。衣。の。つ。う。さ。女。房。の。中。に。は。は。り。う。致。
 事。成。と。は。く。と。あ。う。け。い。を。あ。う。う。り。と。致。ま。也
 ち。う。は。ゆ。あ。く。の。い。は。ま。也。う。う。ま。あ。び。ま。い。向。い
 ち。新。原。が。お。れ。君。乃。お。う。て。う。あ。る。致。若。を。あ。い
 け。う。い。い。い。う。り。守。の。ま。れ。致。を。は。く。ら。ま。あ
 う。う。て。致。を。う。あ。う。て。あ。ま。あ。若。を。の。び。あ。と。い。い
 一。を。何。う。う。う。と。あ。う。い。み。み。致。を。と。い。い。う。た

ちて何の罪をし。我を弁につくらてごふん。尾張
 國代は、御司やうびふふ。天皇我を國司よみ給
 ひ。うづらうは、せんごのうづらうも。ちうたふよごを、
 ぐらうてよしたぬ。ちうてまはらう。わさまよもわじ。
 け五郎まらまら。い。うづこの。そらあうらう。うら。え。の
 お。わて。れ。ゆ。ま。れ。い。を。え。ご。う。れ。ご。も。ま。ら。い。の。せ。
 あ。ま。ご。整。美。の。ま。ら。い。の。う。く。う。ん。か。り。よ。い。ら。う。て。整。美。の。ま。ら。い。
 う。せ。う。う。づ。ら。う。と。ん。ご。の。う。づ。ら。う。あ。七。十。の。あ。り。あ。ま。ら。う。わ。ら。う。
 一。ま。ま。ら。う。一。う。づ。ら。う。あ。ま。ら。う。わ。ら。う。と。う。づ。ら。う。と。う。づ。ら。う。
 う。ぞ。う。帝。王。の。れ。う。は。て。王。宮。の。内。へ。て。衣。將。衣。乃。絶。

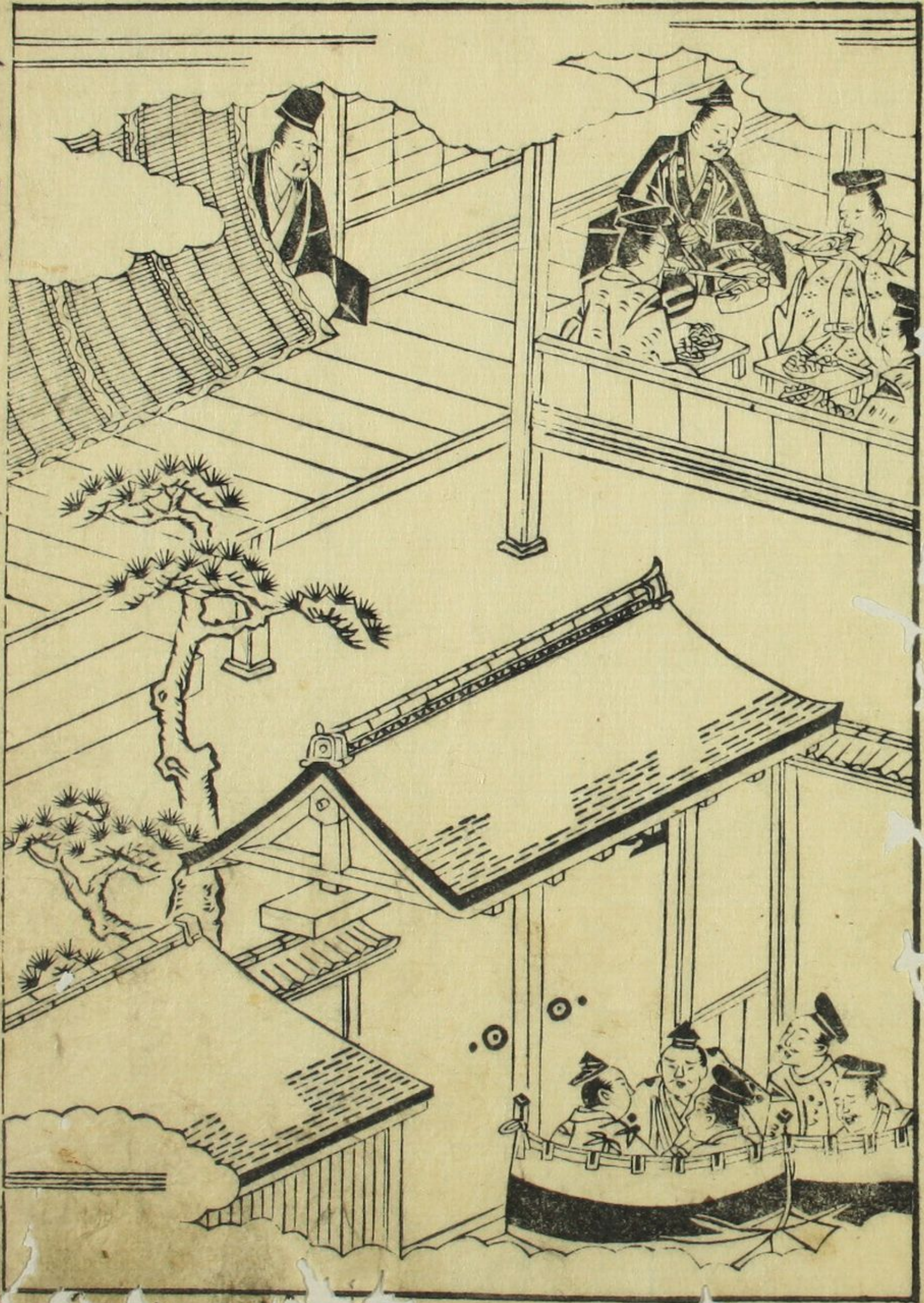
を。し。た。て。も。の。ら。ぬ。り。い。ら。う。い。ら。う。い。ら。う。い。ら。う。い。ら。う。
 わ。ら。ぬ。其。が。わ。ら。う。わ。ら。う。わ。ら。う。わ。ら。う。わ。ら。う。わ。ら。う。
 い。ら。ぬ。と。ん。と。て。虚。言。を。い。は。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。
 人。の。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。虚。言。を。い。は。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。
 ね。ご。い。ら。ぬ。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。
 ま。ご。わ。ら。う。い。せ。ご。ま。宮。の。内。へ。て。考。終。一。終。り。ご。う。ら。う。て。
 押。し。た。罪。女。わ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。
 ち。う。ら。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。
 て。い。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。
 南。飯。乃。方。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。

今昔物語 和朝巻九

十五

とも目めてのけきしめて。らんごうのうらむれども
みはぐらんよ。いづれ帰らん中ごらむ。念じ居るは
門をりそちあきて。年ぶらちう士のらをけり物で
いづく。守殿のしきと作也。ゆく射面せはかりし
事ねそらうくであらぬ。いづれ女かどねらけり
おとまりのけり。おくわらさやぶ。さあてけり咽う
わらん。清い酒一つあもき作らん。まづた右邊の官人
舎人をいへぬ。次の府に官人連の邊衛官の人を
のまといまん。後よりとど。一度ひくづくれども。あ
せづくはとど。志づいゆる人先邊衛官の官人連

せ多くと。しきいづく。殺判目めて。さく咽と。か
おらう。されいづく。けりま作ら。まらく。かくまは
事の方を。はをし。けりんと。若く侍のうと。圖て
門をり。まき。いづく。左右邊の官人舎人。中門の
北の廊。長延を。海東向。さゆ。こ。間。ごらむ。敷を。
中に机。三十づら。弘向。けり。ま。さ。り。けり。と。人。は
物を。いづく。けり。ま。干。綱。垣。の。鞋。けり。げ。り。さ
切く。盛。り。り。懸。乃。けり。翹。乃。翹。乃。けり。葉
子。は。よく。懸。り。葉。の。葉。を。ち。り。を。大。か。り。春。日。望。り。
ナ。ご。ら。む。けり。ま。り。と。人。ね。く。て。後。よ。邊。衛。官。の。官。人



人情物語の御明巻九

まごころりこれたへ入るといへ。尾張兼時。下野敦行
 等。官人どもおしれて入るれば。他府の官人ども入
 して。門を開く隙をけりて。強盗とて入る。友人
 ども。中山は。並居り。疾入るといへ。皆のやら
 て。た右邊の官人。ある乃。向付よ。さる。のら。先由。並
 と。やく。あ。き。し。や。い。ん。ご。も。お。あ。る。や。ぶ。官人
 ども。物。あ。り。ま。ゆ。ん。い。つ。た。て。は。鞋。廻。廻。録。を。び。び。つ。で
 ち。つ。か。ぶ。あ。び。い。く。ち。て。並。の。大。く。ら。ち。や。う。な。ら。と。こ。り。
 打敷よすく。おあ。り。並。府。敦。行。が。あ。よ。屋。決。り。大。ぬ
 偏。提。り。酒。を。く。も。ら。さ。り。つ。り。並。府。敦。行。れ。の。く

多礼を多礼にまねてまねていんまに末社よりいふはすて
 皆服鳴くすめれたあつらふはこころは重村あつらふは
 けしきけしきさらけゆきまづおのく坐敷まきてけしき
 かさねり。板敷とくさうにわらひ車宿よゆきを
 うづらゆり。急めをも解ほせ。あつらひの漸く腕あり
 椽の水ぬらうとぞおとく大後を深しうかく志れが
 たらひはる事よ。けきぐわ中まきり仕らさんおと
 うらうらかりといふはあり。やく守りあつらふことあり。
 我多がかりとにせやくのあつらふちりといふは有。額
 をさぶめ服をりくさくうめといはれり。あつらふる門

をいきて。次の府の官人まゝまゝといふ。各まゝ入
 みく。茶のともが。各はけ酒をのまば。我多が中らめ
 かなぐとさう。袴もどく大後よけがまゝ。くまゝまゝ
 ことなして。もゝいて遂てまゝ。けしきけしきけしきより。
 あり。重村あつらひ。けしきけしき。そのゆり。けしきあつらひ。日
 平張の下に。三四府かさや。後咽喉うらたて。まゝが
 けしきまゝ。いんま空腹よまや。まゝまゝ。まゝまゝ。まゝ
 肴めで。味損じて。破さ酒のおら。まゝまゝ。牽牛子と
 ともり。まゝのまゝ。まゝまゝ。まゝまゝ。まゝまゝ。まゝまゝ
 まゝまゝ。まゝまゝ。まゝまゝ。まゝまゝ。まゝまゝ。まゝまゝ

